

---

# 大石ぶちよし物語

ごはんライス

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

大石ぶちよし物語

### 【Zコード】

Z6128Z

### 【作者名】

いはんライス

### 【あらすじ】

ぶちよしは口リ華が好きであった。でも口リ華にはたけしひという彼氏がいた。そして、たけしはぶちよしの親友であった。

大石ふみよしは、口リ華に恋していた。

しかし、口リ華にはたけしとこの彼氏がいる。しかも、たけしは、ふみよしの親友だ。

張り裂けそうである。正直、通り魔とかしたい。

しかし、通り魔をすると死刑になり口リ華と会えなくなるのだから。

ふみよしは部屋で宿題をする。

円周率（パイ）を使った計算問題。

当然、口リ華のおつを想像してしまつぱみよしだ。

「ああん。かわいい。おつ。いつたい口リ華ちゃんのおつ。の体積はどれくらいなんだ。もんで確かめてみよつ。もみもみ」

「いやん。くすぐつたいよう。ふみさん

ふみよしは興奮してきた。

宿題を中断し、ベッドに寝転がり、『ナナナナナ。

じまひく待つべだせー。

スッキリしたふみよしは宿題がはかどった。

翌日、数学の授業。ふみよしは、先生に描され、円の面積の解答を黒板に書いた。

先生がなかなかやるなと誉め、じやあいればどうだと聞こ、円の中にひに小さい円を書く。

まるで一ナシ型にしてその面積を求めさせよつとしたわけだ。

ただ、まだ先生が塗つてなこので、じつしてもおつに見える。

「口リ華ちゃん！」

ふみよしは叫んだ。クラスのみんながびっくりしてる。

口リ華が「なあに」と言った。

「おっ もませて！」

と叫びたかったが、たけしがにらんでる。ボロボロ。  
ふちよしは仕方なしに、何でもないと答えた。口り華は「？？？」  
とこう表情。

口り華ちゃん！口り華ちゃん！口り華ちゃん！

ふちよしは家に帰り、肉まん一個用意し、もんだ。

「ははは。口り華ちゃんのおっ。口り華ちゃんのおっ  
ああ何とこう切ないシーン。作者、書いて泣きそりですよ。  
ふちよしは、このままだと精神が病んでくると思って、庭に飛び出しど、竹刀を振った。

「おっ！ おっ！ おっ！ ！」

「つるせえ！」

隣のもちおせん（弓削のまつ）に怒鳴られたので、ふちよしは自転車に乗つて飛ばした。

「おっ！ おっ！ ！」

風が気持ちいい。

知らぬ間に、プロン！ 田にある口り華の家まで来てしまった。

「つ。切ない」

ふちよしは、一階の窓の明かりを見つめながら涙が出そうだ。  
とその時！

背後に気配。

「誰だ！」

「そりゃ いつちのセリフだ」

た、たけしにい？？？

「何でお前がいるの」

「だから、そりゃ いつちのセリフじゃ」

しかし、一人は何も言わずともわかる。たけしも彼氏とはいえ、まだ中1なので、口り華におっぱいをもませてもらえないのだ。二人は、口り華の庭にある木によじ登った。

「あつ 口り華ちゃん！」

「げつ 口リ華」

何と、部屋で、口リ華が自分のおつ

を手で。。。

児童書ではこれ以上書けません。

書けません！――！

おしまい

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6128n/>

---

大石ぶちよし物語

2010年10月11日02時19分発行